EVI環境マッチングイベント2014

—持続可能な社会のための環境貢献最先端成功事例—

皆様への感謝とご報告

11月18日(火)東京国際フォーラムにて開催の、EVI環境マッチングイベント2014におきまして、ご多用中にも関わらず、全国各地から企業、環境事業者、有識者、メディア等、様々な分野でご活躍の総勢211名の皆様にご来場いただき誠にありがとうございました。

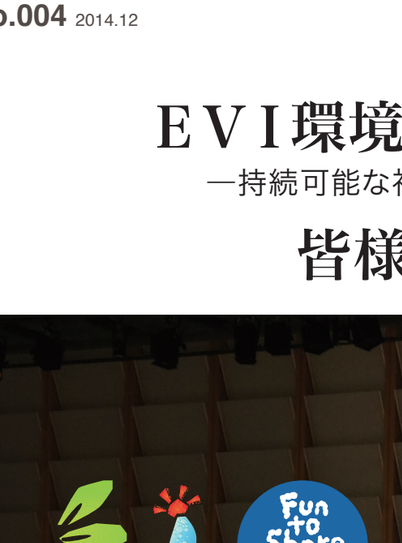
EVI推進協議会スタッフ一同、心より御礼申し上げます。

講師の皆様には持続可能な社会のために「一歩前へ」歩み出すための環境貢献成功事例のご講演を賜り、イベントに参加された皆様には「日本の森と水と空気を守る」想いをしっかりと受け止めていただいたのではないかと思います。次回に向けて更にプログラム内容を充実させ、皆様のご期待に応えることができるように計画してまいります。

EVI推進協議会は、その活動の歩みを止めることなく、日本の森と水と空気を守るため、仲間を増やしながら、継続した環境貢献活動を推進してまいります。

今後とも、EVI推進協議会の活動に変わらぬご理解を賜り、御指導とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

EVI推進協議会　加藤孝一



15:00～　【環境教育の形】EVI環境絵本の読み聞かせと、シリーズのご紹介「もりでみーつけた」

クリエイティブオフィス エジソン **津久井 香乃古**氏
カルビー株式会社 カルネコ事業部 事業開発課 **菅谷 健夫**

EVIでは、未来の子ども達の環境教育のために読み聞かせ絵本を制作。イベントでは制作に携わった、クリエイティブオフィス エジソン 津久井香乃古氏による環境絵本を使った読み聞かせを実演していただき、アンケートからも大変好評でした。EVIは、読み聞かせを通して森や自然の大切さを幼子のうちから感じてもらい、子どもたちの未来が豊かですばらしいものであることを願って、これからも環境教育に力を入れてまいります。

15:15～　ともに、一歩前へ(全体セッション)

カルビー株式会社 カルネコ事業部 事業部長
地域活性化伝道師　**加藤 孝一**

地方創生の時代に向けて、環境貢献型商品・サービスを劇的に増やしていきます。多くの人にお買い求めいただくために、マーケティング、売れるメッセージの開発、演出、デザイン、これは欠かせないことであり、私たちはその力を持っています。未来はわたしたちではありません。今生まれたばかりの子ども達にこの思いをどう伝えていくか。未来の大人たちはきっと環境を守る、そんな未来にしたいと考えています。EVIだけでは影響が小さすぎます。私たちは「Fun to Share」および「日本の森と水と空気を守る」活動にできるだけ多くの皆さんにご参加いただくことを願っています。ともに一歩前へ。来年は500名規模の会場に拡大して開催します。皆さんの1年の成果を、ぜひ、この場で発表してください。全員で共有しましょう。

13:00～　15:45～　ブースツアー

EVI環境マッチングイベントで恒例となっているブースツアーでは、日本各地の特定地域協議会(14拠点／平成26年度)と出展社、合わせて34社によって環境貢献の取組みを紹介。各ブースでは、オリジナリティのある木工品や地域の特産にカーボン・オフセットを付けた商品や取組み等、多数展示されました。ブースツアーでは、沢山の参加者と出展社が積極的にマッチングする機会を得て、更なる事業の発展に向かいました。

ブース出展社のご紹介 (順不同敬称略34出展社)

【北海道・東北・関東・甲信越エリア】
平成26年度　特定地域協議会　採択団体の活動紹介／KANAGAWA地域カーボン・オフセット推進ネットワーク／さっぽろカーボン・オフセット推進協議会／北関東カーボン・オフセット推進ネットワーク／北海道地域カーボン・オフセット推進ネットワーク／岩手県住田町／岩手県／秋田県八峰町／宮城県・森林吸収 オフセット・クレジット普及広報会／国土緑化株式会社／石岡市カーボンオフセット協議会／株式会社マルユー／新潟県／長野県／山梨県／やまなし森の紙推進協議会
【東海・北陸・近畿エリア】合同会社　女神湖リゾートプランニング／中部カーボン・オフセット推進ネットワーク／富山県富山市／北陸地区カーボン・オフセット推進ネットワーク ホコネット／東白川村森林組合／東濱植林株式会社／正垣木材株式会社
【四国・九州エリア】徳島県域カーボン・オフセット推進ネットワーク／えひめカーボン・オフセット推進協議会／愛媛ベレットクラブ／高知県／四国圏カーボン・オフセット推進協議会／熊本電気工業株式会社／熊本県／株式会社トライ・ウッド／沖縄・島しょ地域カーボン・オフセット推進ネットワーク
【協賛メディア等】株式会社　財界通信社／一般財団法人　環境イノベーション情報機構／環境省／J－COF／環境リレーションズ研究所

16:15～　閉会

お帰りの際には、アンケートにお応えいただいた皆様全員に、森や自然の大切さを伝える、読み聞かせ絵本4冊セットを差し上げました。

EVIホームページより絵本の内容がご覧になれます。
ご家庭や学校の教材としてご活用ください。
http://www.evic.jp/evi/evi_ehon/index.html

EVI読み聞かせ環境絵本シリーズ　全4冊

読み聞かせを通して、自然の大切さを伝えよう！

赤ちゃん用　幼児用　小学校低学年用　小学生以上用

発行：環境省　著者：そうま こうへい　企画・制作＝EVI推進協議会

Eco Value Interchange
日本の森と水と空気を守ります。

次回のEVI環境マッチングイベント2015のコンセプトは「ともに創ろう！」。
皆様お一人お一人が主役となり、更なる環境貢献につながる事例を
ともに積み上げることができるよう、イベント開催に向けて邁進いたします。
2015年10月19日東京国際フォーラムB7にて、スペースを拡大して開催予定です。
どうぞご期待ください。

掘りだそう、自然の力。
Calbee　カルネコ
【隔月発行】Re-port
■発行人：加藤孝一　■企画編集：EVI推進協議会　■デザイン：カルネコクリエイティブ
■発行所：カルビー株式会社 カルネコ事業部
〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内 トラストタワー本館22階　TEL：03-5220-6234

ともに、一歩前へ。

Program & Photo Report

総合司会 **秋山 奈々子**氏
（カーボン・オフセットフォーラム）

10:00〜 【開会挨拶】

カルビー株式会社 カルネコ事業部
事業部長 地域活性化伝道師 **加藤 孝一**

10:05〜 【基調講演】カーボン・オフセット関連施策の概要

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課
市場メカニズム室長 **川上 毅**氏

私たちの身近に起こっている小さな環境の変化から、地球の環境持続可能性といった大きなテーマを含んだ、幅広い知見での貴重なお話をいただきました。世界規模での気温上昇とCO2排出量の関係性、発展国、先進国の排出量の抑制。国としての削減目標に関しての施策、取組み。地域活性化プロジェクトの重要性からも川上室長のご講演には、EVIの目指す方向を再認いたしました。皆様の関心も高く多くのご質問もいただきました。

10:40〜 【EVIとは?】環境貢献プラットフォーム「Eco Value Interchange」

カルビー株式会社 カルネコ事業部
事業部長 地域活性化伝道師 **加藤 孝一**

日本を取り巻く環境の変化、温暖化に対する国の取り組みや森林事業の実情、環境保護に対する消費者の意識の変化などEVI誕生の背景、EVIを通じた環境貢献について改めてお話させていただきました。消費の裾野は広く、一人ひとりの気持ちが重なると大きな力になります。消費者からは購入するだけで環境貢献ができる商品が求められています。すべての商品をカーボン・オフセット商品にしたい、そんな思いで取組んでいます。今回、3名の個人の皆様にもご参加いただきました。本当にうれしく思っております。

11:00〜 【カーボン・オフセットについて】クレジット付商品や寄付型カーボン・オフセットの仕組みと活用方法の実務

三菱UFJリース株式会社 環境・エネルギー事業部
オフセットサービス室長 **牧野 佐和子**

2008年より設立したオフセット・クレジットに関する三菱UFJリース様の実務的業務やプロバイダーとしてのお話をいただきました。この後の講師の方々が発表される、様々なオフセット事例の理解を深めていただくために、スポーツイベントや商品を例にしたオフセット還元の仕組み、EVIを通じた寄付型オフセット商品は、消費者にとって身近に参加でき、かつ分かりやすい環境貢献手段であることもご説明いただきました。これからも施策、商品事例を増やすべく、EVIは活動を続けていきます。

11:20〜 【ともに生きる!】防災の日・復興支援キャンペーン取組みの発表

企画実行委員会
日本スーパーマーケット協会 管理渉外部 **茂野 隆一**氏

「伝える力コンクール」表彰式

普段のお買い物を通して、防災への備え、復興支援さらに環境貢献につながる店頭キャンペーン。取り組みの経緯から復興支援の枠組みについて、展開事例を交えてご紹介いただきました。環境省のFun to Shareへの参加、「伝える力コンクール」による売り場担当者の方々の積極的な協力など新たな展開のなかで、今後も継続してくための提言をいただきました。来年度もさらに賛同を呼びかけ、製・配・販の三位一体で、「ともに生きる!」というコンセプトのもと推進して参ります。

11:50〜 【新しい木材利用の形】木質廃材のリサイクル 〜木はとことん使える環境にやさしい素材〜

正垣木材株式会社 営業部 **岡村 勝弘**氏
兵庫県養父市 産業環境部 環境推進課 主査 **中尾 秀幸**氏

国家戦略特別区域（農業特区）に指定された兵庫県養父市は、地域経済の活性化と新たな農業モデルの構築を進める政策を、そして正垣木材株式会社様は、地域の木材業者の視点から着目した新しい燃料利用についてご講演をいただきました。国産材の利用低迷に対し、バイオマス資源の有効利活用の必要性を促しながら計画的に森林整備を行う市と地域の熱需要と供給をプランニングして地域の木材利用を奨める業者とのマッチングにより地方活性化の新しい事例がうまれました。

12:10〜 【新しい木材利用の形】端材から生まれるBtoBの新たな商品価値の創出 〜枝を活用したエコ支柱の開発〜

国土緑化株式会社 経営戦略部 商品企画室 マネージャー**山田 隆介**氏
石岡市カーボンオフセット協議会 会長**池田 寛**氏
（株式会社スズラン企画　常務取締役）

法人を対象に観葉植物をレンタルしている国土緑化株式会社様が、観葉植物の支柱材に輸入規制がかかってしまい観葉植物生産者の中で大きな問題になっていました。そこでEVIを通したマッチングによって端材の活用を模索していた石岡市とが結びつき環境貢献事業として理想的なモデルとなる事例のご講演をいただきました。EVIは、森林支援を通して両者にメリットとなり、未利用木材の有効利用と新しい商品価値を創出する革新的な事例をこれからも積み上げてまいります。

13:40〜 当日ブース出展された皆様の中からミニプレゼンをしていただきました。

株式会社トライ・ウッド様
（ブースNo.16）

中部カーボン・オフセット推進
ネットワーク様（ブースNo.9）

えひめカーボン・オフセット
推進協議会様（ブースNo.13）

合同会社 女神湖リゾート
プランニング様（ブースNo.9）

株式会社財界通信社様
（ブースNo.17）

和やかな雰囲気の中、出展社の中から5社の方々に3分間、自社の環境貢献活動報告をしていただき、その後のマッチングの機会を増やしていただきました。

14:00〜 【生活者の想い】3年間の生活者の環境貢献意識の変遷

カルビー株式会社 カルネコ事業部
営業推進課 **寺西 幸政**

3年にわたる生活者の環境貢献意識の調査報告。消費者の環境に関する意識に大きな変化は見られませんでしたが、国内の森林保護が必要と9割の人が感じ、実際に参加した環境保護・保全活動の対象も「森林」が最も多く、生活者の森林保護に対する高い意識が伺えました。保護活動に結びつく商品やサービスを購入または使用する、間接的活動による環境貢献活動の割合が前年よりアップしていることから、EVIは生活者の想いを真摯に受け止め、環境貢献型商品やサービスの開発につとめ、環境貢献と生活者をつなぐ架け橋となる活動を進めてまいります。

14:15〜 【「Fun to Share」取り組みの形】気候変動キャンペーン「Fun to Share」の取組み

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課
国民生活対策室 室長補佐 **馬場 清**氏

これまでの国民運動を今一度見直し、経済界や自治体を含む幅広い主体をも取り込んだ新たなキャンペーンの展開が必要と考え、気候変動問題をターゲットにした新キャンペーン“Fun to Share”の立ち上げを行いました。それにともなうSNSなどでの情報のシェアや「クールビズ」といった実際のアクションでの参加方法、また取組みに関しての各企業の行っている事例のご紹介をいただきました。個人でもできること、企業だからできることを宣言し、アクションを起こす大切さを分かりやすくお話いただきました。

14:30〜 【EVIマーク活用の形】EVIシールを活用した商品開発の取組みの斡旋（木曽、村松農園カラフルトマト、開田高原ゴーフレット、他3種）

株式会社ウェイストボックス
代表取締役社長 **鈴木 修一郎**氏

地元でカーボン・オフセット活動を進めるにあたって実際に経験されたパッケージの問題や、商品出荷までにかかるCO2排出量をふまえての農家さんとのやり取り、またその先の地元の人の手にお届けした際の感想など、実際の感想なども含めながら大変参考になるお話をいただきました。事例としてカラフルトマトの成功例から開発中の商品のご紹介なども伺いながら今後の課題として、EVIマークの認知や流通などもご提示いただきました。

14:45〜 【地域活性化の形】リゾートエリアの森林保護とCO2削減の取組MODEL 〜グリーン&クリーン・リゾートの展開〜

一般社団法人 蓼科白樺高原観光協会
理事 **榎本 真弓**氏

立科町・観光協会の取組み、自然あふれる女神湖の美しいスライドを拝見し、榎本様の女神湖や立科町に対する愛が伝わるお話でした。オフセットの仕組みをホテルに宿泊されるお客様へ周知・理解していただくためのグリーン&クリーン・リゾート参加証などのスターターキットの紹介から、従業員への理解を通じて、オフシーズンの再宿泊が見込める付加価値としての可能性も見えてきました。女性の関心・理解がオフセットを広めるカギになることもヒントとしていただきました。